

日伯交流年へのメッセージ

日伯交流年は、2008年が日本人のブラジル移住の開始から100周年に当たることを記念して、日本とブラジルの両国政府の間で合意されたものです。私達はまず、日本からブラジルに渡った移住者やその子孫がブラジル社会の発展に大きく貢献された功績を称えたいと思います。また、今日では、日系人を中心とした30万人を超えるブラジル人が日本に居住し、日本経済の活性化に寄与されています。さらに、こうした双方の人の動きは、両国の相互理解にも大きく寄与し、日伯関係を独特のものにしています。私達は、移住者とその子孫がこのような形で日本とブラジルのそれぞれの発展に貢献するとともに、両国の架け橋として大きな役割を果たしてこられたことに敬意を表したいと思います。

同時に、私達は、日伯交流年が両国間の交流を更に深める契機となることを望んでいます。例えば、両国の経済は補完関係にあり、近年、両国の民間企業の間では連携が進みつつありますが、こうした動きが加速し、農業、製鉄、鉱業などの伝統的な協力分野に加え、科学技術、再生可能エネルギーなどの新しい分野で協力関係が深まることを期待しています。また、気候変動の問題を始めとする国際社会が抱える様々な課題に挑戦する上でも、両国政府が緊密に協力していくことが重要です。さらに、2008年には年間を通して、様々な文化事業が行われ、これらは両国間の相互理解と両国国民の交流の強化に大きく貢献するものと確信します。

日伯交流年は、二国間関係の新たな100年の始まりに当たります。両国関係にとってこの最初の一年が充実したものとなるように、両国政府としても全力を尽くす決意であり、両国の関係者の皆様方にも一層のご尽力を期待しております。

福田康夫

日本国内閣総理大臣

ルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルバ

ブラジル連邦共和国大統領